

『2001年宇宙の旅』（にせんいちねんうちゅうのたび、原題：2001: A Space Odyssey）は、アーサー・C・クラークとスタンリー・キューブリックのアイデアをまとめたストーリーに基いて製作された、SF映画およびSF小説である。映画版はキューブリックが監督・脚本を担当し、1968年4月6日にアメリカで公開された。小説版は同年6月にハードカバー版としてアメリカで出版されている。

上映時間 141 分

あらすじ

人類の夜明け（THE DAWN OF MAN）

遠い昔、ヒトザルが他の獣と変わらない生活を送っていた頃、黒い石板のような謎の物体「モノリス」がヒトザルたちの前に出現する。やがて1匹のヒトザルが謎の物体の影響を受け、動物の骨を道具・武器として使うことを覚えた。獣を倒し多くの食物を手に入れられるようになったヒトザルは、反目する別のヒトザルの群れに対しても武器を使用して殺害し、水場争いに勝利する。歓びのあまり、骨を空に放り上げると、これが最新の軍事衛星に変わる（人類史を俯瞰するモンタージュとされる）

月に人類が住むようになった時代。アメリカ合衆国宇宙評議会のヘイウッド・フロイド博士は、月のティコクレーターで発掘された謎の物体「TMA」（Tycho Magnetic Anomaly, ティコ磁気異常、通称「モノリス」（一枚岩））を極秘に調査するため、月面クラビウス基地に向かう。調査中、400万年ぶりに太陽光を浴びたモノリスは強力な信号を木星（小説版では土星）に向けて発した。

木星使節（JUPITER MISSION）

18か月後、宇宙船ディスカバリー号は木星探査の途上にあつた。乗組員は船長のデビッド・ボーマンとフランク・プールら5名の人間（ボーマンとプール以外の3名は出発前から人工冬眠中）と、史上最高の人工知能 HAL（ハル）9000型コンピュータであつた。

順調に進んでいた飛行の途上 HAL は、ボーマン船長にこの探査計画に疑問を抱いている事を打ち明ける。その直後 HAL は船の AE35 ユニットの故障を告げるが、実際には問題なかつた。ふたりは HAL の異常を疑い、その思考部を停止させるべく話しあうが、これを察知した HAL が乗組員の殺害を決行する。プールは船外活動中に宇宙服の機能を破壊され、人工冬眠中の3人は生命維持装置を切られてしまう。

唯一生き残ったボーマン船長は HAL の思考部を停止させ、探査の真の目的であるモノリスの件を知るようになる。

木星 そして無限の宇宙の彼方へ（JUPITER AND BEYOND THE INFINITE）

ロサンゼルス郡立美術館に展示されたベッドルーム

単独で探査を続行した彼は木星の衛星軌道上で巨大なモノリスと遭遇、スターゲイトを通じて、人類を超越した存在・スターチャイルドへと進化を遂げる

キャスト

デヴィッド・ボーマン船長 キア・デュリア[6] 堀勝之祐

フランク・プール ゲイリー・ロックウッド 小川真司

ヘイウッド・R・フロイド博士 ウィリアム・シルベスター 小林昭二